

下毛野公時と金太郎伝説の成立

川島茂裕

はじめに

- 一 下毛野公時とその家系
 - 二 公時の職能と藤原道長
 - 三 公時の人物評と金太郎伝説の成立
- おわりに

論文要旨

〓足柄山の金太郎（坂田公時・酒田金時）〓は、桃太郎とならんで日本昔話の中の代表的な英雄のひとりである。しかし、金太郎は、伝説上の「人物」であって実在しない。ところが、『大日本史料』（第二編之一二）は、下毛野公時を〓足柄山の金太郎〓の原像としてはじめて把握した。本稿は、それを承けて、第一に、下毛野公時の実像を主に記録類などの同時代的な史料に依りながら解明しようとしたものであり、第二に、下毛野公時から〓足柄山の金太郎〓伝説への成長過程を、中世を中心にして整理することを意図したものである。その結果得られた、下毛野公時という実在の人物から〓足柄山の金太郎〓という伝説上の英雄への成長過程を要約すれば、次のようになる。

(1) 公時は、下毛野公友奉を父として、尾張兼時の娘を母として、長保二年（一〇〇〇）に生まれ、寛仁元年（一〇一七）八月二十四日以前に、九州・築紫の地で没した。享年一八歳であった。その彼は、近衛舎人からはじまり、いっき

に番長まで昇進していった。その間、確認できるだけでも、歌舞（東遊）・騎射・相撲使を務め、同時に藤原道長の隨身としても活躍していた。

(2) 彼は、その職能から、左右近衛府の官人のなかで「第一の者」といわれ、死後、約一世紀を経てもなお高い評判を得ていた。ちょうどその頃、『今昔物語集』に見られるように「公時」から〓金太郎〓への伝説化が開始される。

(3) 鎌倉時代では、当時の武士の認識を示したと思われる『渋柿』において、はじめに「頼光の四天王」伝説が成立する。さらに、同時代の『古今著聞集』によって「頼光の四天王」伝説の定着化がはかれると同時に、後世の鬼退治物語の原形が生まれた。

(4) 以上のような経過をたどって、中世末期頃までに成立した『御伽草子』の中の「酒吞童子」の物語において、「頼光の四天王」に藤原保昌を加えて、著名な鬼退治伝説が流布され、〓足柄山の金太郎〓伝説の原形が成立したのである。